

# 安定的な米の生産・販売による農業関連事業収支の黒字化

福光農協(富山県)

## 取組の概要

- 農協を中心に地域一体となり、中食・外食企業のニーズに合わせた契約栽培・販売による安定的・計画的な米の生産を実施。

## 事業化(プロジェクト化)成功のポイント

### 1 「地域一農場」での生産

農協の管内全体を一つの農場(「地域一農場」として捉え、昭和52(1977)年から、組合員や学識経験者等が参加した協議会などで協同活動強化運動を行いながら、農業振興計画(品種や生産量の地区別計画)を策定し、地域農業を推進。

管内では、販売を委託する全農富山県本部を通じた播種前契約による需要に応じた生産を実施。早生(酒米「五百万石」、もち米「とみちから」、中生(主食用米「コシヒカリ」、晩生(中食・外食向け「てんこもり」)をバランス良く生産することで、担い手(集落営農・法人)の期間労働や機械利用の分散による農業経営の効率化と農業所得の増大を図り、あわせて農協の施設利用を効率化。こうした取組により、管内の米の農協の集荷率は90%以上となり、販売事業も安定的に運営。

### 2 実需者のニーズに合わせた多収米生産による安定販路の確保

大手弁当・外食チェーンを展開する中食・外食企業のニーズに合わせた品質の米を生産するため、同企業との炊飯試験や緊密な意見交換を行い、弁当向けの冷めてもおいしい米を生産。独自の栽培暦や施肥体系の作成などに取り組み、多収品種「てんこもり」の契約栽培を実施(平成29(2017)年産で農協全体での出荷量8,150トンのうち16%(1,020トン)を同企業に供給)。

### 3 営農関連施設の集約や営農指導事業体制の見直しによる効率化

管内の様々な営農関係施設を、どの地域からも同程度の距離にある場所に集約し、施設の稼働率を向上。作業人員も集約して効率的に運営。特にカントリーエレベーターについては、水稻作付目標面積が減少する中、転作作物を麦大豆から加工用米等に一部転換することで実需者が求める生産量を維持するとともに、協同活動強化運動を背景とした担い手への高い農地集積率

(平成30(2018)年で87.4%)により利用が年々増加。加えて、減価償却費の段階的縮減により、乾燥調製事業の損益が改善。

また、平成23(2011)年に合併前の旧農協単位で配置していた営農指導員を本店に集約し、業務を効率化。単に人員を削減するのではなく、地区別担当に加え作物別にも担当を分担し、専門性を高めるとともに、研修等で特定の職員が不在でも他の職員が対応できる体制を整備。

## 取組の実績

堅調な販売事業収益の下、コスト削減により、農業関連事業収支を黒字化

